Engineer プラットフォーム

技術構成

Engineer ApSが使う言語、データ基盤、クラウド、インフラの技術を
ご紹介します。何を使うかを判断する際の考え方も説明しています。

ツールは手段です。お客様が購入するのは、適したものを選ぶ判断力と、それを適切に運用する規律です。とはいえ、何を使うのかという問いには、こちらでお答えします。どの項目にも、実績紹介に裏付けとなる仕事があります。

次に採用する方も **すでに知っている言語で書きます** — コードを私たちだけのものにしないためです。



Python Go TypeScript JavaScript PHP

仕事に合わせてツールを選ぶ

チームに必要な仕事と、今後保守するシステムに合わせてツールを選びましょう。

サービスを見る お問い合わせ →

技術的な判断を確かめる

技術の選択を支える実績をたどり、その制約に適していた理由をお尋ねください。

事例 お問い合わせ →

言語と実行環境

データ処理、自動化、サービスには**Python**。単一の静的バイナリーと低い実行時負荷が重要な箇所には**Go**。ウェブ層には**TypeScript**と現代的なJavaScriptを使います。**SQL**はORMに生成させるものではなく、主要な言語として扱います。ご依頼いただく性能改善の多くも、その部分にあります。各処理をつなぐ**Bash**は、読みやすく書きます。

データ

標準の選択は**PostgreSQL**です。別のものを選ぶ前に、パーティション分割、レプリケーション、拡張機能、クエリプランナーを十分に活用します。**MS SQL Server**、**BigQuery**、**SQLite**、**Redis**も運用し、その上の地理情報技術として**PostGIS**、**QGIS**、**GDAL**、**ArcGIS**も扱います。パイプラインは再実行可能かつ冪等につくります。インシデント後に必ず問われるのは、「もう一度処理できるか」だからです。

仕事に合わせて **ツールを選びます** — 選択に伴う利点と不利益を説明します。

ツールの選択は、既存のシステム、制約、必要な業務内容によって変わります。

クラウドとインフラ

Google Cloudと**AWS**を使い、お客様がすでに採用している場合は**Azure**も使います。基盤はすべて**Linux**、Debianと**Ubuntu**です。必要性に見合う処理には**Docker**と**Kubernetes**を、それ以外には単純なsystemdユニットを使います。**Ansible**と**Terraform**でマシンを記述し、環境を、発掘調査の対象ではなく文書として扱えるようにします。入り口には**Caddy**と**nginx**を置きます。

本番運用

指標には**Prometheus**と**Grafana**、それ以外には構造化ログを使います。グラフが少し動くたびではなく、利用者が気付く症状に対して通知します。CIジョブは、人の介在なしにビルド、テスト、スキャン、デプロイを行います。バックアップの自動化と、それとは別の復元テスト用ワークフローを実装します。

ウェブ層

適する場合は静的な構成を優先します。静的ページは、リクエスト時にアプリケーションを実行せずに配信できるからです。このサイトは**Hugo**で構築しています。アプリケーションを提供する場合は**Django**と**PHP**を使います。意味に沿っ

たHTMLと手書きのCSSを使い、アクセシビリティを、監査で指摘されてから対応するものではなく、要件として扱います。

選び方

意図して選んだ定評のある技術は、何となく選んだ新しい技術に勝ります。課題に合うか、私たちが離れた後にお客様のチームが運用できるか、実演時ではなく障害時にどう振る舞うかを基に選びます。現在の技術構成が適切なら、そうお伝えします。適切でなければ、そのことも、理由を書面にしてお伝えします。

このサイト自体が、その実例です。クレジットには、書体やバックアップツールに至るまで、使っている技術をすべて記載しています。

単に好みのツールを並べる会社よりも、考えを持つ依頼先をお探しでしたら、つくりたいものをお聞かせください。

ツールを並べるだけでは **能力の証明にはなりません** — 課題に合うものを選べることが大切です。

このページに挙げる技術は、すべてリンク先で読める実績に使われています。

実績で確かめる 提供するサービス →

現在の技術構成から始める

現在の技術構成、運用要件、チームが持つ技能をお知らせください。

料金を見る お問い合わせ →

根拠のある技術変更を相談する

新しいプラットフォームやフレームワークの採用を決める前に、役に立つ最小限の変更をご相談ください。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://platform.engineer.company/ja/tech-stack/